

郷土史への扉

霧島の地形



上野原縄文の森や上野原台地の先端にあるハイテク展望台から周囲を見渡してみますと、雄大な桜島、静かで豊かな水を湛える錦江湾、そして北側には霧島連山と大パノラマが広がっています。

その中でちょっと不思議な地形を見ることができません。国分の平下原・須川原・観光農園のある春山原、鹿児島空港のある十三塚原、鹿児島島の吉野台地と、約二百五十メートルの高さで、まるで定規で直線

を引いたように平らな台地が広がっています。

二 始良カルデラの噴火

この平らな台地はどのようにしてできたのでしょうか？

これは、今から約二万五千年前、錦江湾奥を噴出起源とする大火山（始良火山）の大噴火によってできました。

この時の火山活動は想像を絶する巨大な噴火を起こし、多量の軽石や火山灰を降らせました。噴煙は上空の成層圏まで達し、火山灰が地球全体を覆い、一時期地球の気候変動を起こしたのではないとも言われています。また、火山灰は上空の偏西風に乗って朝鮮半島や日本全域に降りました。現在でも東北地方に五センチほどの厚さで始良・丹沢火山灰層（通称AT層）として確認することができます。ちなみに、このAT層は広範囲に堆積していることから二万五千年前の旧石器時代の遺跡や遺物（石器など）を比較したり時代を確定したりするうえで非常に役に立っています。

この一連の火山活動は南九州の地形を一変させました。巨大噴火によって発生した火砕流（入戸火砕流）は南九州全域を襲い、それまでの地形をことごとく覆いつくして一面平坦なカルデラ台地（シラス台地）を作りました。

さらに、多量の噴出物によって陥没してきたカルデラは現在の錦江湾となり

ました。



三 噴火後の地形

噴火直後は平坦な台地と直径約二十キロの楕円状の火口壁をもつ内湾しかなく、桜島や国分平野もない、現在見る風景とは程遠いものだったと思われます。

その後、雨や川の力によって、少しずつ谷が形成され、流された火山灰によって国分平野がつけられました。

噴火後も火山活動は続いており、カルデラの南縁付近の海底から噴火によって桜島が誕生しました。桜島はおよそ一万三千年前に海面に姿を現し、それから噴火活動を繰り返しながら成長を続け、およそ六千年前まで北岳の噴火が、さらにおよそ四千年前から南岳の噴火活動が続いて現在の桜島を形成しました。また、隼人沖の神造島も火山活動によってつくられました。

四 縄文海進

霧島市の地形は始良カルデラの噴火によってその基礎は造られました。その

頃は氷河期の時代で、およそ一万年前で続きました。その後もまだ冷涼な時期が続き、降雨量も少なく、そのため流水作用による地形の変化も少なかったと思われる。

現在のような地形に大きく変えたのは、およそ六千年前の「縄文海進」と呼ばれた時期だと思われます。縄文海進とは、地球の平均気温が現在より三度ほど高く、そのため南極や氷河の水が解け海面が上昇し、海が陸の方へ進むことをいいます。

縄文海進の時期は、地球温暖化のため現代以上に降雨が多く、しかも海面温度の上昇により台風も大型化していたため、洪水や土石流が頻繁に発生し地形の変化も進みました。海岸は流されてきた多量の土砂で遠浅（干潟）の地形を作り、地球の気温が現在の気温に近づくにつれて、海面が下がり、遠浅の海は広大な平野となりました。国分平野もですが、世界に、平野に六千年以前の遺跡がないのはこのためです。

五 霧島の地形

このように、霧島市の地形は火山活動と水の力によって、それも僅か二万五千年の間に造られました。そこには、火口湖・滝・溪谷・湧水など数多くの自然の造形があります。今一度、霧島の自然に触れ、悠久の時空の中に浸ってみませんか？

（文責：鈴）